

東海道五拾三次之内 掛川 秋葉山遠望



秋葉三尺坊火伏の神として有名な秋葉神社のある秋葉山を望み、二瀬川橋の上を参詣の旅僧と巡礼の行き交う姿が描かれています。橋のたもとに建つのは登山道の道しるべの秋葉燈籠でしょうか。

春風を受けて五月の節句を祝う遠州凧が舞い上がり、その下の藍色の田んぼで田植えをする五月女や橋の上で糸の切れた凧を目で追う子供の姿が印象的な作品です。

ていばーく所蔵資料紹介④

小判切手の原版

郵便創業からの日本切手の印刷は、手彫り凹版方式といって1シート分の印面をすべて手彫りで行う方式で、個々の切手に相違が生まれ大量に印刷することができませんでした。そこで、大蔵省紙幣寮に招かれていたイタリア人エドアルド・キヨッソーネの指導のもとに切手の製造方式を一新しました。

この方式は、1枚の元版から凸版の原版を作成し、これをつなぎ合わせて1シート分の原版を作成するため、切手の量産が可能となりました。

図案の中央に小判型の輪郭があるため、「小判切手」と呼ばれています。また、この切手からシート下部に切手の製造した所を示す「銘版」が入れられました。

(錦絵/資料解説：附属資料館 井上卓朗)

